

ぐんぐん 23↑↑

R5.10.2

第3号



↑本校 HP

仲秋の候、ますますご盛栄のことと思います。先日は運動会へのご参観、ご協力ありがとうございました。雨天で延期にはなりましたが、全体的に子ども達が活躍した運動会になったと思います。代休翌日には応援団解団式も終え、運動会関係は無事に幕を閉じることができました。

さて、運動会が終わり、ひと区切りです。学習面からしても諸富北小学校全体にとって、**ここからがある意味、再スタート**です。子ども達には運動会で学んだことをこれからの学習活動、生活面に生かして行ってほしいです。



◇◇全国学習状況調査の結果が出ます◇◇

4月に全国の小学校6年生と中学3年生が受験した「全国学力学習状況調査」の結果・考察が10月に出ます。この調査では、小学6年生に対しては、主に前学年までに学習したことをもとに問題が出されました。今年は国語算数の2教科でした。本校の子ども達の結果は個人票として通知表と一緒に6年生に配布します。うまくいっている点や課題について今後の学習への参考にさせていただきたいです。また、全体の結果と考察についても学校のホームページに載せますので、そちらをご覧ください。5年生以下にとっても傾向をつかむことができると思います。

今回の本校6年生全国学力学習状況調査の概要としては、国語は全国平均正答率と同等で9.5/14、算数は少し下回り9.7/16という結果になりました。それぞれに課題が見え、学校としても授業改善を続け、「わかる」「できる」と感じ、どの教科であっても子ども達が進んで学ぼうとする学習環境を設定していく必要があると考え、日々努力しています。

しかし、そこには学校だけではなく、確実に家庭や地域の協力が不可欠です。右図のようにロケットで考えてみましょう。「学校と家庭と地域の三本柱のエンジンで子ども達というロケット打ち上げ、軌道に乗せた後は、子ども達自身で学習を進めていけるようになること」を目指すことが大切だと思います。学習力を身に付けるのです。そこで、①学校での改善に加え、②子ども自身のやる気アップ、③家庭学習時間の十分な確保、④地域でしかできないような学習活動などを行っていき、子ども達の学力を向上させていきたいと思っています。今後も保護者の皆様には改めて家庭での学習（質と量）についてご理解とご協力をいただき、子ども達への声かけやアドバイス、励まし等をお願いいたします。



◇◇「〇〇の秋」、今年は「読書の秋」をパワーアップ!◇◇

先日の昼会の時間、校長先生から「読書は『心の栄養』です」とお話がありました。さて、子ども達はご家庭で読書の時間をとっているでしょうか？学習時間もそうですが、読書の時間も自分でつくろうとしないと設けることができません。読書はすればするほど、自分に良い影響を与えてくれます。改めて読書について考え、パワーアップして取り組んでみませんか？

よく言われることではありますが、「読書量と子どもの学力は関係している」そうです。情報の1つとして「こそだてまっぷ9/24付」の記事を紹介します。そこでは、『本を読むことで、言葉や数字の理解力や記憶力、論理的思考や判断力などが鍛えられます。そのため、読書量が多い

子どもは、学力が高い傾向にあることが分かっています』とありました。1つ前の項目で紹介した全国学力学習状況調査の質問項目にも読書の項目があり、やはり読書量が多い子どもは正答率が高い傾向にあることがデータとして出ていることから明らかだと思います。そうは言っても、好んで読書をする子ばかりではないですし、ただただ長い時間本を読んだからと言って学力が高くなるわけではないようです。豊富な知識を得ることができ、知的好奇心を満ちし、前述したような学力向上への効果を期待するには、読んだ「時間」よりも本を読むことが「好きか嫌い」が重要だそうです。では、どのようにして子ども達が読書に興味を持ち、「好き」になってくれるのか、いくつか考えられる工夫を5つ挙げていきたいと思います。

① 図書館や本屋に一緒に行く

子どもと一緒に図書館や本屋に出かけてみましょう。子どもが本を読みたがってなくても、保護者の方が自分で本を選んでいる姿を見せたり、楽しそうに読んだりすると、子どもも自然と本に興味を持ちます。子どもが興味を持った本と一緒に読んであげると、さらに興味の幅が広がります。

② 映画・アニメの本から始めてみる

本を読むのが苦手な子どもには、映画やアニメの原作やノベライズ本などから始めてみるのもいいです。一度見たことがあるアニメの話であれば、ストーリーや登場人物も分かっているので読むのが楽になります。まずは、原作で内容の楽しさを知り、慣れてきたら徐々に文字だけの本に挑戦していくといいと思います。

③ 保護者が本を読む姿を見せる

読書が好きになるかどうかは、ご家庭での読書環境も大きく影響しています。子どもは親や身の回りの大人の行動をまねしたり、学んだりします。そのため、保護者の方が楽しそうに読書をしたり、集中して読書をしている姿を見せることで、子どもも本に興味を持ちやすくなることにつながります。

保護者の方が読書の時間をつくり、本の内容や感想を子どもと楽しくお話して共有し、積極的に読書のおもしろさを子どもに伝えてもらえると嬉しいです。月に一度の「ぽかぽか読書」もご活用ください。

④ 「読んでいて分からないことはいつでも聞いてね」と声をかける

本を読んでいて、分からないことがあると、子ども達は本の内容が分からなくなって読むのを止めてしまうことがあります。分からない言葉を自分で調べるのも大切ですが、それでは読書のハードルが上がってしまいます。子どもに読書の楽しさを知ってもらうためには、保護者や大人のサポートが大切です。まずは、「分からない言葉があったらいつでも聞いてね」と声をかけると安心して読書に取り組みます。もし質問してきたら、その言葉の意味やどんな場面で使われるのかなど、言葉の豊かさやおもしろさを伝えると良いかもしれません。

⑤ 家のいろいろな場所に様々なジャンルの本を置いてみる

子ども達が読書好きになるためには、本に触れる機会を増やすことが大切です。ソファの隣やベッドの近く、自分の部屋やみんなが集まるリビングなど、家のいろいろな場所に本を置き、子どもがいつでも本を読める環境をつくと楽しいです。さらに、子どもが興味のある本を本だけでなく、絵本や物語、図鑑や地図、クイズやなぞなぞ…といったいろいろな種類の本があると、子どもは自分の好みや興味のある本を見つけやすくなります。読書環境が整っていると、自然と子ども達は本を読む可能性が高くなります。



他にもいいアイデアがあるかも！いろいろと試してみて、みんなが本好きになるといいですね。

→逆にしちゃいけないのは…？NG～！

- ×①無理やり本を読ませようとする
- ×②こちらが決めた本を読ませようとする
- ×③子どもが選んだ本を否定する
- ×④本の内容や感想を無理に聞こうとする

「読ませる」のではなく、「読みたくなる」ようにする働きかけや環境づくりが大切です。この秋はこれを機に、ちょっとしたスキ間の時間を活用したり、親子で読書の時間を設けたり、テレビやスマホの画面から離れる時間を増やして、本ともっとお近づきになりませんか？